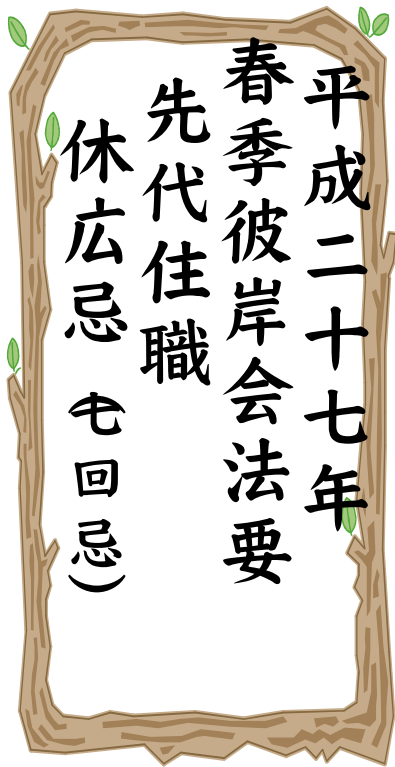


浄国寺通信

第18号
平成27年3月9日
発行
熊本市北区
高平 2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義昭



春彼岸法要の開催

この前、年が明けたと思つたら、もう春のお彼岸を迎える時期となりました。今年も例年通り、三月二十四日(今年は、火曜日になります)に開催します。ただ今回は、先代住職の七回忌に当たるので、壇信徒の皆様と共に供養を行いたいと思ひます。早いもので、先住が遷化して丸六年が過ぎました。この間、本堂の床板の貼り替えを最初に行い、納骨堂のエレベーターの設置、屋根と庫裏玄関

の天井の修復、晋山式の準備から挙行、と慌ただしく工事だけは行つて参りました。しかし日常は幼稚園関係の仕事、私立幼稚園団体の役職の遂行などに追われ、僧侶としての活動が留守になつていたような気がします。私も、そろそろ仕事を整理、選択して壇信徒の方との時間も多く作らなければならぬと考えています。幼稚園の世界も、この四月から新しい制度が実施されます。寺も園も腰を落ち着けて取り組む時期が来たように思われます。どうか、見守つてください。

浄国寺春季彼岸会

日時 平成二十七年三月二十四日(月)

午前十一時より

先代住職休広忌(七回忌) 法要

導師 大慈寺住職 佐藤 泰道 老師

春季彼岸壇信徒総供養

供養 了つて

法話 佐世保市 俵ヶ浦町

東蓮寺 住職

岩田 正人 老師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい

晋山式 無事円成

前号で、お伝えしましたように無事に晋山式を終えることが出来、百日間の安居(修行)期間も終わりました。先代住職は「中興の祖」として「中興」の称号を贈られています。しかし実質的には、中興だけでなく、新たな寺院建立を行った中興開山の住職だと思つていきます。その先代が作り上げた浄国寺を立派に護り、更に発展させると共に次の住職に渡すことが私の務めだと思つてい



ます。現在、「家」制度の崩壊と共に、壇信徒制度も揺らぎ、これまでの役割であった葬送儀礼としての仏教さえ、その位置が危うくなつていきます。一方では、社会

先代住職の事

この浄国寺通信の創刊号で、先代住職の人となりは一度、紹介しましたが、今回七回忌を迎えるにあたり、もう一度、お伝えしたいと思ひます。この六年間で、新たに縁を頂いた檀家の方も沢山いらっしゃると思いますので、浄国寺の歴史を紹介する意味でも、ここに記させて頂きます。先代住職 中山道全(以下 先住と記す)は、大正九年三月に、天草郡荅北町に於いて役場の収入

不安等で心の置き所がなくなつて、逆にも多く、逆にも仏教が果たすべき役割が増えている部分もありません。今、この時を生きている人のために僧侶として頑張つていく所存です。どうぞ、宜敷く御願致します。



役をしていた祖父の次男として生を受けました。幼い時から、学業も秀でていたのですが、それ以上に、気性も激しく上昇志向も強かったそうです。田舎の次男坊では、自分の才能を生かせないと考え、又、大変先祖を大切にす家でもあったので、小学校を出ると長崎県野母崎町にある曹洞宗の観音寺に小僧として出家しました。そこから旧制の多々良中学、駒沢大学(共に曹洞宗の学校)、更に駒沢の専門部(今の修士課程)に行き、卒業後は大学の職員として就職しました。その後、教職に就き長崎県立小浜高校の初代校長となりました。一方で寺院住職としての思いは強かったので、既に曹洞宗も妻帯を認め世襲化が進んでいた為に、生計を立てることが出来る寺院の住職という場所は見つけることが出来ませ

んでした。ようやく見つけることが出来たのは、住職は行方不明で壇信徒は殆ど離散している熊本市の浄国寺でした。公立学校の教員の職を捨てて妻子を連れて浄国寺に着いたら、そこに本堂を不法占拠して住んでいる世帯が沢山いる状態。弁護士費用もなく自ら法廷に立ち裁判で寺を取り戻したそうです。私立鎮西学園の教員として生計を立て、浄国寺の復興に努めました。その後、白川の河川敷工事に浄国寺の場所があたり、現在地に移転しました。地域の要請もあり幼稚園の併設も行いました。私財を投じて寺の再興を行い、生活も苦しかったのですが、ようやく寺としての体裁が整ったのは、この頃でした(昭和四十二年頃)。高校教師を辞し、熊本工業大学(現崇城大学)の講師と幼稚園長の職をこなしながらも、宗門の議員として地方寺院の為に宗政に働きかけ、最後は宗議会議長の職も務めました。父親としても、優しさや厳しさと両面を持った立派な父でした。ただ、親子共に理屈っぽく、喧嘩の時は、理詰めで言い争う、

他人から見たら、分かりにくい嫌な親子げんかに写ったかも知れません。今、私も娑婆であれば定年を考え、年齢になり、改めて父の大きさを感じています。生きていく間に晋山式を行えなかった事だけが、申し訳ないという気持ちと残念な思いで悔やまれます。まだまだ師匠の域には達しませんが、浄国寺八代目住職として、先代の意志を継ぎ、現代に合う形での寺院運営に努めたいと思います。

晋山結成記念 南直哉 老師講演会

晋山式挙行を記念して、以前から一度話を聴きたいと願っていた南老師の講演会を開催することが出来ました。老師は、永平寺で二十年の修行を経て、現在青森の恐山菩提寺の院代をなさっています。著書も多く、内容は、僧侶にありがちな分かりやすさに重点を

置く本とは一線を隔し、読み辛い部分はあるが、奥深いものです。ただ、講演も同様に難解になるのではないかとという危惧を抱いていました。しかし、実際に話を聴けば、そんな予想を吹っ飛ばす勢いで、難解どころか斬家も裸足で逃げ出すほどの笑いあり、泣きあり、しかも大切な仏教の考え方は、伝えるという素晴らしいものでした。是非、もう一度、来て頂きたいと思えます。その時は、壇信徒の皆様も足をお運び下さい。

- 平成二十七年 浄国寺予定
四月二十九日(水) 午後二時
松本喜三郎 墓前祭
喜三郎翁 追憶供養
谷汲観音供養 その他
七月三日(金) 午前十一時
施餓鬼会法要
お盆壇信徒先祖総供養
十月三日(土) 午後七夜
「いま 心に」
仏教講演会
記念音楽会
鈴木良雄 & Generation Gap

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて

一炷(約四十分)坐禅をして、仏教や禅の著述に関する話(約二十分)。今は坐禅用心記。会費会則一切なし、初めての方はご連絡下さい。

身辺雑記

トマ・ピケティの『二十一世紀の資本論』が知識人？に大受けだそう。何を今さらと思う。現在の全て貨幣価値に換算して、等価計算を基準で行動する世相を見れば、貧悪、富善の図式が成立し、格差社会が到来することくらい本に頼らなくても明白だろう。どうせ研究するなら、日本の偉大な経済学者である宇沢弘文氏の「社会的共通資本」の研究の方が対応策が明確に示してある分、為になる筈だ。現政権では、子育て支援と称して「待機児童解消」を最優先で決定している。幼稚園の世界など、この為に「子どもの為の施設」という大原則さえ見失いがちだ。「児童を待機させない」ことより「待機する児童を作らない」ことが重要な筈だ。乳幼児期の親子に大切な家庭の時間は、政府が国策として減少させている。そして経済成長率上昇の為に労働力の供給を求めている。しかし、その富は富裕層の懐や大会社の内部留保となり再分配はされない。この状態で乳幼児期を過ごした子どもが、大人になったらどうなるのだろうか？「学道の人」は先づすべからず貧なるべし。正法随聞記に示された道元禪師の言葉だ。「多欲の人は多く利を求むるが故に、苦惱も亦多し」 釈尊の最後の説法の一節だ。坊主から言われたくないと突っ込まれそうだが、仏の言葉として受け止めて欲しい。